

業界力の向上を目指して！

暑中お見舞い申し上げます。また、九州を中心とした震災、集中豪雨などの被災者の方々に深くお見舞い申し上げます。

さて、このたびCEMA八代目の会長の任を受けましたアネスト岩田株式会社の壺田でございます。当社はCEMAの初代会長の任を受けましたが、CEMAは本年で四十周年を迎えました。この間、石油ショック、バブル崩壊、リーマンショックなどの経済危機を乗り越えることができましたことは、ひとえに皆様方のご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

この一か月を見ましても、英国のEU離脱投票、急激な円高など経済的な動向には目が離せません。しかしながら、どんな経済状況になりましても、世の中から「塗装」が無くなることはなく、それに携わる塗装機械も存続し続けます。その存在の中で、塗装業界の相対的な地位向上のために、CEMAとしての役割と責任を果たすために邁進いたします。

従来、塗装機械が単に製造メーカーの立場であ

れば、買う立場のユーザーに対して常に弱い立場に置かれてきました。

「ユーザーが頭を下げてメーカーに買いに来る」、これが真夏の世の夢に終わらせることのないよう、業界としての業界力を上げたいものです。

CEMAは塗装の業界力を上げるために次の三点に取り組んでいます。

1. 「もの作りの中での、塗装の付加価値を上げる」。

このためには、もの作りの開発の段階から塗装の機能を訴えて参画する仕組み作りが重要ですが、常日頃からの塗装の重要性、付加価値を社会的に訴求していく活動も必要でしょう。

2. 「実質的な塗装の付加価値を上げる」

ユーザーに塗装の具体的な付加価値を提供するためには、塗料、塗装方法の良し悪しが明確な場合は問題ありませんが、個別の有意差が無い場合は、トータルでの塗装コストと最終製品の「塗膜」の差別化情報を提供する努力も必要でしょう。

3. 「環境・安全の信頼度を上げる」

厳しい経済状況では、製造業にとって環境・安全面で一度でも対外的な

問題が発生すると立ち直りが困難になります。この信頼度を上げるためには、塗装工程、塗装ラインを徹底的にアセスメントを施して、環境・安全の実ラインに即した情報提供などのサービス活動も鍵になります。

これら三点の、ユーザーへのサービスを考えるとき、塗料、塗装業界としての一体化した対応と、環境・安全に対する知識、経験とそのラインへの応用までの幅広い対応が必要となります。

これらは、塗料、塗装機械メーカーのみならず、窓口となる販売店の方や学識経験者の方々の含めた取り組みが効果的となるでしょう。

CEMAとしては、常日頃から、塗装技術のみならず、安全環境の基本的な情報収集や標準化、体系化に努め、その成果を技術シンポジウム、

ASTECS（先端表面処理技術展）で皆様に提供するとともに、ホームページで技術情報として発信していきます。さらに、業界関係者とともに、ユーザーに展開するために、塗装機械に留まらず、「塗装業界」としての業界力を目指したいと思っております。

今後の塗装関係各位との
情報交換、協力関係構
築を一層進めてまいりま
すので、ご協力、ご指導
の程、よろしくお願い申
し上げます。